



十津川村長 小山手 修造氏

デマンド型タクシーと 村営バスとの住み分け 図り、利便性の向上へ

県境が三重、和歌山両県と接し、日本一広い面積を誇る吉野郡十津川村のかじ取りを、20年ぶりに任されることになった村長の小山手修造氏(58)は、広大な村内に分散する「大字」を網羅し、乗り合いタクシーなどのデマンド交通を全村に行き渡らせる構想を描く。加えて、若者の雇用増進を掲げ、夏期の雇用(観光)と冬期の雇用(林業)をマッチングさせることを強調する。温泉とアウトドアの観光のメッカの村には、新型コロナウイルスの感染拡大による影響も大きい。小山手村長が描く村の将来像について聞いた。

「1期目の方針は。」

選挙で十津川中を回つ

前村長が作られた骨格予算に私が肉付けした一般会計補正予算の規模は総額で約57億円。これを6月議会に諮ります。これまでの施策の効果、目的を見直したいという機運があつて、私に託されたのではないかと感じています。足元は新型コロナ対応ですので、経済的な補償が主になつていま

て思つたことは、地域、地域によって全く違う特性があるということ。まさに十津川村は多様性のあるつぼに等しいなどというのを感じました。

生活 자체も同じ村といつても全然違います。地域に合わせた施策というものをやつしていく必要があると思いますし、逆にやりがいを感じます。單一の物差しで当てはめるというよりは、それぞれの地域に合わせた形で、良い意味でそれぞれの身の丈に合った施策が必要だと思います。

「1村の面積の96%が山林。林業についての考え方」

木材という形の林業といふよりも「森林經營」ということを考えないといけないと思います。山に殺されるんじやないかというぐらいの切迫感を感じます。森林を管理するというより、セーブしないといけないぐらいなのです。そういう状況にあるんじやないかなと危惧(ぐ)します。

一方では、従来型の林業とマッチングさせると感じます。森林を管理する方々がやはり非常に不便を感じていらっしゃる。生活しようとすると免許を取って車に乗れないと十津川村で生活でき

ます。ただ、悩みは通信費が高くつきます。もっと住民の皆さまの利便性を向上させるなど、使い易い形にしていく必要があると思います。

「十津川観光について」

十津川で観光といえますが、基本は温泉と思われています。山の景観などをはじめ、観光にふさわしいような整備を同時にやっていく必要があります。

ついては、担い手である雇用ですね。人の雇用をどう考えるかという中で、観光関係で夏場は人を要するんだけども、冬

をどう考えるかという中で、観光関係で夏場は人を要するんだけども、冬

いでしょうか。

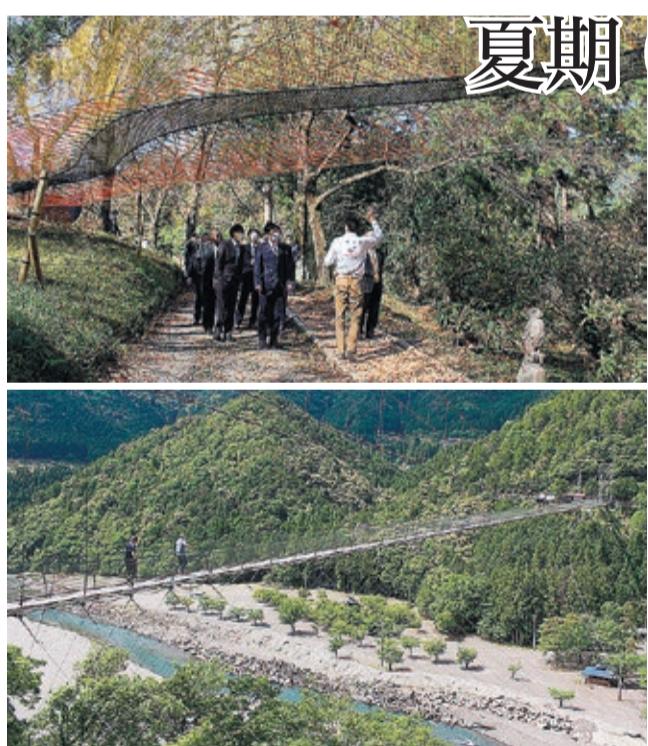
「時代の流れでICT(情報通信技術)が広い村こそ必要になつてくると思うのですが。」

玄関先から車に乗れるよう、そういう形に今まで組み替えようとしています。一方で、バスにしても結構ガラガラだったりするわけです。住み分けを図って、利用者の方々の利便性をとにかくアップしていきます。

「そのことによる心理的な支障は。」

十津川の場合、「字」が重要なのです。ICTの話に関連するのです。が、その中で「役場が遠く感じる」というお声をいたいたのです。物理的には近くなっていますけど、いろんな形で役場職員が各家庭に伺つたり、村報にしても以前は持つて行つてもらつていました。いろんな形で即接点を持つという局面があります。そこはデジタルとは全く違うアナログの発想かもしれませんけれど、より村民の方との接点を愚直に増やしていきたいと思っています。

「移住・定住のための空き家対策も重要なことがあります。空き家も、借りたい人もいっぱいいます。なぜこれがマッチングできな



コロナ禍の中、再開された屋外施設「空中の村」(上)と「谷瀬の吊り橋」

夏期(観光)と冬期(林業)の雇用マッチングも

「最後に、北海道・新潟川町とのつながりへの思いについては。」

残念ながら、今年の6月も新十津川町へお邪魔しました。いろいろな形で役場職員が各家庭に伺つたり、村報にしても以前は持つて行つてもらつていました。いろんな形で即接点を持つという局面があります。そこはデジタルとは全く違うアナログの発想かもしれませんけれど、より村民の方との接点を愚直に増やしていきたいと思っています。

「最後に、北海道・新潟川町とのつながりへの思いについては。」

奈良県を母県、十津川村を母村といふことができません。奈良県議のお計らいが大きかったと思います。荒井知事も一緒に行つていた

明治22年の十津川大火害から132年。一致団結、不撓(どう)不屈、質実剛健という言葉は新十津川町から教わった言葉です。新十津川町の開町記念に初めてお邪魔しました。形から入つて心に入ります」と言いますが、本当にきっちりされていらっしゃる新十津川町の皆さん

の姿を、十津川村で体現したいという思いにさせられました。